

平成 27 年 1 月 16 日

# 南の風 107

南部ミニバスケットボール連盟  
会 長 藤原 敬一

オールジャパン女子決勝の後半です。

後半に入り、JX は渡嘉敷選手がゴール下で頑張り逆転する。その後も渡嘉敷選手、間宮選手のインサイドでのパワープレーで加点する。一方デンソーは、自分たちのタイミングでシュートが打てず苦戦を強いられる。その後、何とか高田真希選手の得点で持ちこたえる。さらに、伊集選手が3連続ゴールを決め、流れを呼び寄せ食い下がるが、38対39でJXがリードして最終ピリオドへ。

4Pに入りJXは、吉田選手のジャンプショット、渡嘉敷選手のドライブ、岡本選手のスチールからの速攻で一気に14点を挙げ突き放す。デンソーはイージーミスが目立ち、タイムアウトで立て直しを図る。高田（汐）選手らのシュートで挽回を試みるが反撃もそこまで。JXが66対53で2連覇を果たした。最後は中と外に、オフェンスの安定感を見せたJXが押し切った感じでした。

さてここで、女子準決勝のJX-ENEOS サンフラワーズVS富士通レッドウェーブのゲームを振り返ってみたいと思います。ミニバスにも十分参考になるプレーがありました。ゲームの流れに沿って紹介していきます。

JXについては上記しました。まず、富士通の状況について書きます。今シーズンからBTテプスヘッドコーチが指揮しています。WJBLリーグの前半の成績は、12勝2敗（昨年の12月21日現在）で2位です。JXとの対決では、92対64で快勝しています。今年の富士通のゲームを観て感じることは、「やることが明確だ」ということです。ヘッドコーチの交代や新戦力の加入が大きいと思います。そして選手一人ひとりのモチベーションの高さもしっかり伝わってきます。

前置きが長くなりました。準決勝について書きます。私見を交えて書きます。JXは、吉田、岡本、渡嘉敷、間宮、宮澤がスタートメンバーです。富士通は、篠崎、町田、山本、篠原、長岡という布陣です。1Pの立ち上がりは、両チーム動きが硬くシュートが落ちます。JXの間宮、宮澤選手のシュートの決定率が上がりません。富士通は山本選手のカットインや篠原選手のポストプレーで攻めます。JXの高いインサイドの守りに、決定率はやや下がるものの、中と外の攻撃バランスはよいです。後半は、JXは吉田選手の3Pや渡嘉敷選手のゴール下のポイントで加点します。16対15でJXがリードします。

2Pに入ると、富士通がブレイクします。今年の富士通の特徴は、オンザコートの5人の内3ポイントを確認よく打てる選手が4人いることです。スタメンでは、篠崎、町田、山本、長岡選手です。2Pの途中で交代したベテランの三谷選手も3ポイントが得意な選手です。また、長岡選手は長身でありながら、走れて3ポイントも打てる選手です。2Pの中盤になると、三谷、篠崎、町田選手の5本の3ポイントが次々に決まります。さらに2ポイントやフリースローも含め、一時最大13点のリードを奪います。JXはシュートタイミングが悪く、リズムに乗れません。焦りも加わりターンオーバーも出ます。そんな中、吉田、岡本選手の3ポイントや渡嘉敷選手のゴール下で何とか凌ぎます。2Pを終わった時点で、35対42で富士通のリードです。前半を終わっての印象は、JXのオフェンスのリズムが悪いことです。足が止まっているため、よいタイミングでシュートが打てません。 続きは次号にします。